

第 94 回 学長選考・監察会議議事概要

- 1 日 時 令和6年1月30日(火) 15時~16時2分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 三輪委員, 伊藤委員, 小田委員, 佐久間委員, 森委員,
柴田委員, 鈴木委員, 染矢委員, 小野寺 以上9名
*欠席者: 冨田委員
*オブザーバー: 田代監事, 逸見監事

4 議事概要の確認

第93回学長選考・監察会議議事概要が確認され, 承認された。

5 議事

(1) 学長の業務執行状況の確認について

牛木学長の就任4年目(令和5年2月~令和6年1月)の業務執行状況の確認について, 監事からの意見聴取, 学長との面談を行い, 質疑・意見交換が行われた。その後の総括審議については継続審議とし, 更に意見がある場合は2月中旬を目途に文書にて事務局に送付することの提案があり, 承認された。

(主な意見及び質疑等 ○: 委員の発言, ■: 牛木学長の発言)

- ・就任4年目の令和5年2月から令和6年1月までにおける重点課題・重視した取り組みについての成果と課題について伺いたい。
- ・第4期中期目標・中期計画においては, 「教育・学生支援」, 「研究」, 「社会との共創」を3本柱としている。教育・学生支援については, 複数の分野にわたって体系的に学ぶことができるメジャー・マイナー制や現代社会文化研究科・自然科学研究科等を再編し分野横断型プログラムの実施等を内容とする大学院改革を進め, 各取組に進展があった。なお, この他テーマとしていた未来教育の推進については, 今後取組を進めることにしている。
- ・研究については, 新潟大学若手教員スイングバイ・プログラムを実施し, 積極的に若手教員の採用を進めた。同プログラムについては効果等を随時検証しているが, 学系等からの意見も参考に仕組み等について検討することになっている。また, 文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され,

旭町キャンパスに「ヒト脳科学・ヘルスイノベーションセンター（仮称）」の整備を進め、研究の加速・推進を目指している。なお、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図る「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に申請したが不採択であったため、再度の申請に向けて対応を進めることにしている。

- ・ 社会との共創については、地域産業を活性化するためのリカレント教育の充実を進め、地域のニーズを踏まえた産業領域別の共同教育講座を企業と共同で設置し、取組を進めた。また、地域と大学の組織型連携を推進する共創イノベーションプロジェクト（共創 IP）を進め、6つの共創 IP（コメ共創 IP、おいしさ DX 共創 IP、モノづくり共創 IP、防災街づくり共創 IP、地域医療 DX 共創 IP、佐渡共創 IP）において、地域産業の創生等を目指す活動を行った。令和5年4月1日に、佐渡共創 IP の足がかりとして佐渡市インキュベーションセンターを設置し、佐渡地域での教育研究や地域課題の解決等に向けた活動を進めた。
- ・ キャンパスを持つ意義を活かすため、学生と教職員だけでなく多様なステークホルダーが集うイノベーション・コモンズ（共創拠点）化を五十嵐キャンパスで進めた。また、国際感覚に満ちた魅力ある仕組みづくりを目指す新学生寮の令和7年建設に向けて取組を進めた。
- ・ 令和2年2月から令和6年1月までの学長在任4年間における重点課題・重視した取組についての成果と課題について伺いたい。
- ・ 学長就任当初から新型コロナウイルス感染症対策に当たり、多様な問題への対応を進めた。
- ・ 新潟大学のあるべき姿、諸活動の方向性等を示す「新潟大学将来ビジョン2030」及び「第4期中期目標・中期計画」を策定し、その実現に向けた取組を進めた。具体的には、メジャー・マイナー制やデータサイエンス教育の推進、大学院教育の整備、若手人材や外国人研究者等の積極的な獲得、全学の分野横断型研究の拠点整備や脳研究所の国際研究の推進、地域と大学の組織型連携を推進する共創イノベーションプロジェクトの実施、キャンパスのイノベーション・コモンズ化等を進め、本学が目指す「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」ことに向けて取組を進めた。
- ・ 牛木学長がいろいろな取組を進められている中で、新潟大学に対する期待が非常に大きいと実感されているのではないかと思います。最近のことで言うと、1月1日に能登半島地震が発生したが、地震災害に関しては、新潟大学は中越地震等を通して防災や減災という視点での相当の知見を

持っている。大学は知の拠点であるが、知を実践する提言を社会に対して積極的に行うなど、目に見える形で行動する場面がもっとあっていいのではないかと思う。具体的にはもう少し新潟県との連携で提言するような行動を見せていただきたい。研究機関としての外に出る研究が、社会との共創における課題解決や常に社会との共創に意識を置く学生の育成などにつながり、新潟大学が目指すライフ・イノベーションの実現に結びつくと思われる。これからは、前に出て行くべき時期に入るのはないかと考えるが、学長の所見を伺いたい。

- ・今回の地震では、災害・復興科学研究所、危機管理センター、医学部災害医療教育センターが地震発生当初から各種対応に携わっていたが、大学としてメッセージを発信すること等は、今後の課題として考えていく必要があると思っている。地域と大学の共創を目的とする取組が共創イノベーションプロジェクトであり、その中で進める地域医療 DX 共創 IP は、地域医療を DX と結び付け、課題解決に取り組むもので、具体策の提言を行うところまで目指している。地域と大学の対話の場を開催しており、その中でも共創の取組について強調したいと思う。
- ・今後学生数が急激に減っていく状況にあり、新潟大学はこれまで学生を選ぶ立場であったが、今後は学生に選ばれる大学にならなければいけないと考える。そのためには、新潟大学の質を上げていく、特に学生の質を上げていくことに注力する必要があると考えている。優秀な学生を集めるために、現在どのような取組を行っているか伺いたい。
- ・本学は、現在ある程度の入試倍率を維持できているが、新潟県内の私立大学では大幅な定員割れが生じているところもある。やがて本学も学生数減少の問題に直面すると考えており、学生の質がどうなるのかという問題には非常に危機感を持っている。その対策としては、新潟大学は面白いから進学したい、新潟大学でぜひ学んでみたいと思わせる魅力ある教育プログラムを各学部を設定することであると考える。また、そのことは大学院においても同様であり、現在検討している大学院改革はその一環で、他大学にはない魅力的な教育プログラムを作り、社会にアピールしていくことが必要であると考える。他大学とは違う本学の魅力をいかに出せるかが重要で、そのことを常に学部等に問うようにしており、執行部も考えなければならないと思っている。広報にも力を入れており、これまで行ってきた取組やコロナ禍を契機として実施したオンライン説明等の効果を検証し、より効果的な取組の実施を考えていきたいと思っている。

- ・ご説明のあった取組等を強化されたら良いのではないかと思います。優秀な学生に新潟大学を選んでもらう方策として、例えば教員が高校に出向いて教えるなど、もう少し外に出て新潟大学をアピールする活動があっても良いのではないかと思います。
- ・コロナ後の現在、新潟県内の雇用状況を見ると、県内企業の採用状況は非常に厳しいものとなっている。新潟県出身者は関東方面に、特に若い人が関東方面に就職する傾向があり、県内企業等の活力がどんどん低下してきている状況にある。新潟県にも優秀な企業や光るものづくり等がいろいろあり、新潟大学の学生に新潟県内の企業に就職してもらい、新潟県全体を盛り上げていく、発展させていくために一緒に仕事ができないかと常々思っている。県内企業への就職について学生に話していることや県内企業と学生の意見交換の場の開催など、取り組みを行っているかについて伺いたい。
- ・学部長と話す中で、キャリアパス教育を行っているか尋ねている。学部入学時から、将来どのようになりたいかを意識する中で教育することが必要であり、企業の人から話しを聞くような授業をもっと採り入れるべきではないかと話している。新潟県の企業を紹介する説明会等も行っているが、学生は関心のあるところにはしか行かず、あまり効果がないとの話しも聞いているので、その当たりを精査しなければならないと考えている。新潟県内の企業をもっと知ってほしいと企業の人に言われているが、学生の6割は県外出身者で、その半分以上が東北や北関東地域から来ており、卒業後は出身地に戻る傾向がある。また、4割の県内出身者においては首都圏指向がある。そのような状況であるが、新潟県内に魅力ある企業があることを、新潟大学としても示さなければならないと思っている。
- ・令和4年度中期目標・中期計画等の進捗に関する自己評価において、中期計画25項目中1項目「⑳－1 高度医療人材育成拠点、国際化拠点」のみが「中期目標の達成のためには遅れている」の自己評価となっている。このことについて、所掌部局から学長にどのような分析や対策が報告され、学長からどのような指示を出されているのか伺いたい。
- ・コロナ禍による国際学会発表数の低下等を受けての自己評価であることから低評価としている旨聞いているが、単年の状況であり、第4期中期目標・中期計画期間を通しての達成は可能であると考えている。